



示現会春季研修写生会報告

2016年5月14日（土）15日（日）

新潟県魚沼市

昭和23年4月、第1回示現会展が開催され、写生会も毎年千葉県「太海」を皮切りに始まり、その後関東近県の写生地で実施、一度も欠かすことなく今年で69回になります。

初めの頃は出品者懇親会写生でしたが、昨年度より誰でもが参加できる研究会として「春季作品研究会」と名称を変え、展覧会会期中に参加者を募りました。今回の場所が新潟の魚沼ということで新潟支部より24名の参加がありました。また関東近辺30名、遠方からは石川、長野、和歌山、愛知、福岡の参加をいただき総勢69名で実施いたしました。

初日の写生地は小出スキー場。小高い草原の素晴らしいパノラマで新潟を代表する越後三山（八海山、中ノ岳、駒ヶ岳）を正面に臨む場所。しかし残念なことに山の中腹までは見えるのですがスカイラインを見ることはできませんでした。それでも参加者の皆さん思い思いの場所を選んで晴天の下で絵筆を走らせました。

小出スキー場では、新潟支部の地元絵画団体、白象会の会員の方が連絡を取られ新潟新聞、越南タイムズ、小出郷新聞の記者の方が見られました。インタビューには成田先生、井上先生が応じられ示現会の創立及び創立者、地方支部、所属会員数今までの写生地等お話されました。

4時に参加者全員がホテルに集合しました。懇親会は6時から始まりました。写生会責任者佐藤理事の開会の言葉、渡辺写生担当委員より事務的な報告のあと、深津委員の司会で成田先生のご挨拶、井上先生の乾杯の音頭で賑やかに始まりました。一人一人の自己紹介、余興では新潟支部の手品の出し物があり大いに盛り上がりました。

二次会では成田先生、井上先生を囲み絵の具の話とか構図、参考にする資料などについて真剣な対話がありました。

今年は参加人数が多ことからそれぞれの作品の研究会は懇親会前と翌朝の2回に分けて行いました。作品研究ではいつものように写生現場で描くことの大切さ色の使い方、構図の取り方など親切丁寧に指導受けました。

翌日はスケッチ日和の好天気になりました。朝食の後ホテル前で記念写真を撮り解散しました。宿舎のバスで送ってもらい正面に八海山を見るトミオカ・ホワイト美術館近辺での写生には大勢の人が参加しました。残雪の八海山今年は例年より雪が少なかったせいか緑の部分が多く、皆さんギザギザな山の形と緑の世界大変苦勞いたしました。

来年もまた元気でお会いすることを誓い写生会を終了しました。



役員:成田禎介 井上 武 佐藤祐治(責任者)

委員:渡邊良一 安藤義雄 倉本健夫 大川陽子 深津美南子 中井悦子

会員:36 準会員11名 会友:9名 一般:10名 合計:69名



記者とのインタビュー小出スキー場にて



研修会



思い思いの場所で筆を走らせ



八海山富岡・ホワイト美術館近辺



二次会で質問に答える



手品の余興